



地域学校協働活動

No 2 令和8年10月号 (令和8年10月9日)

安曇野市教育委員会 三郷公民館

三郷ボランティア合言葉 「できるときに」 「できる人が」
「できることを」

【第2回 三郷地域学校協働本部連絡会より】

9月9日(水)に三郷公民館で、「第2回三郷 地域学校協働本部連絡会」が開かれました。今回の連絡会では教育委員会からの提案について熟議がされました。その内容を紹介します。

【生涯学習課より】 ※CS＝コミュニティスクールの略

☆テーマ1＝安曇野市コミュニティスクール事業を市民に知ってもらえるための普及事業について

・CS 情報「三郷地域版」と教育委員会だより「ふるさと安曇野」の資料から以下の意見が出されました。

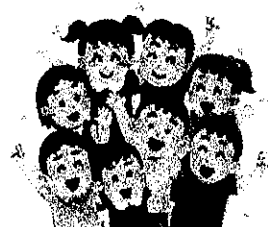
○安曇野市CS事業の13号だが、学校教育課と連携したのかテトルを使って三郷小学校の保護者全体に広報していただいているのがありがたかった。学校だけでなくそれぞれが繋がってCSの情報を流してもらえたのがあるがたい。今後も続けてもらいたい。他地域のものを流すのがいいのかどうかはまた検討してもらいたい。

○「こども」「コンビニ」「制服」＝良くないという大人の認識があるかどうか。部活のあとそのまま塾に行く子も多い。そうすると一度家に帰らない子は。コンビニで軽食を買って塾に行く。そうすると今までの違和感、もちろん今まで迷惑かけたことなど指導は必要なこともある。ただそういう子を見る大人の目もベクトルをそろえていかなくていけないのではないかな。CSの中で今までの当たり前で子どもの姿をとらえるのではなく見方を変えていく必要もあるのではないかな。

【学校教育課より】

テーマ2＝部活動の地域展開(地域移行)について

・「安曇野市が目指す地域展開(地域移行)の姿・部活動改革・進め方今後考えていく必要があること・現在の状況」の資料から以下の意見が出されました。



裏面もあります

○今小4の子が中学に入るときには部活がないという現実。部活がない状況を地域が担わなくてはならないということで時間が迫っている。皆さんの後ろにある人材や施設を思い浮かべてもらい、知恵をよせあって一緒に考えていきたい。

文化系の子どもが中学に行って何も無いのは可哀そう。今日の資料を咀嚼してまた話し合う場を設けたいと思う。

○生まれてから死ぬまでずっと活動していく教育となると生涯学習と考えられるが、今の地域展開で受け入れ先がないとなると生涯学習と連携は取れているのか疑問に思う。場がなければ生涯学習課で把握している団体との連携を模索しているのか。やはり教育委員会の中で同じことをしているのだから内部での共通の場、目標に向かった活動というのがもう少しあってもいいのではないかとおもう。

【子ども家庭支援課より】

○テーマ3＝放課後の子どもたちの居場所・放課後児童対策パッケージについて

・「放課後児童対策パッケージ」の資料から以下の意見が出されました。

○地域展開の話から居場所の話まででたが、居場所や待機児童は人が多くて困っている現状、部活動は少子化でそれぞれの学校で部活動をやっていくのが立ち行かなくなるのではないかと、これを合体できないのかなと感じる。高学年が児童館に行くキャパがないのであれば、中学生と一緒に競技団体に行くことができれば、わざわざ子ども達を押し込めなくても、やりたいことができるのではないかと。そう考えると学校だけではなく生涯学習課と一緒に場所を作っていく、学校単位ではなく地域で。松本市が部活動の地域展開を地域ごと絞ってやっているのはそういうことではないかと思う。どうしても部活動の受け皿という話になるが、受け皿ではなく地域のスポーツ、文化をどうやって継承行くのか考えたときに5、6年生も含めたことを考えてもいいのではないかと。



○合唱部が今年度で活動終了、吹奏楽部も少なくなっている。地域展開の中で地区の中で子どもを受け入れてくれたらありがたい。中学生の問題だけではなく小学校も含めて考えてもらいたい。

○児童館について学校には入れなかったというクレームは直接来ていない。5、6年生が文体に集まって騒いだため指導はした。敷地内に建ててもらっているがそれでも足りるのかどうか。駐車場問題はプレハブ撤去後のところを駐車場にする予定。

○子どもの立場に立った時いたたまれない、気楽にはいられない。今日見えてきたところは考えや行っていることをまた意見・情報交換したい。全員が当事者としてお互い持ち寄れたらありがたい。

※以上第2回三郷地域学校協働本部連絡会の協議事項を抜粋して報告させていただきます。

だきます。

お問い合わせ 三郷公民館 内田 電話 77-2109 FAX 77-6060
